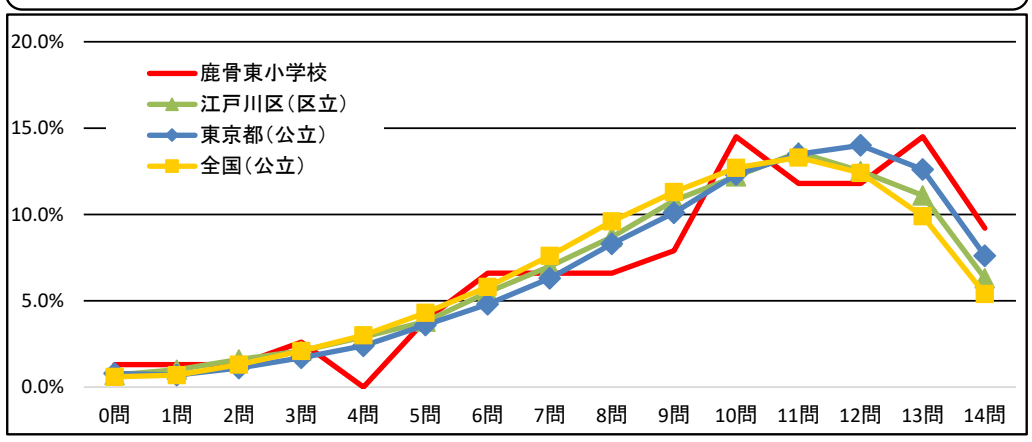
令和7年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【国語】鹿骨東小学校

正　答　数　分　布

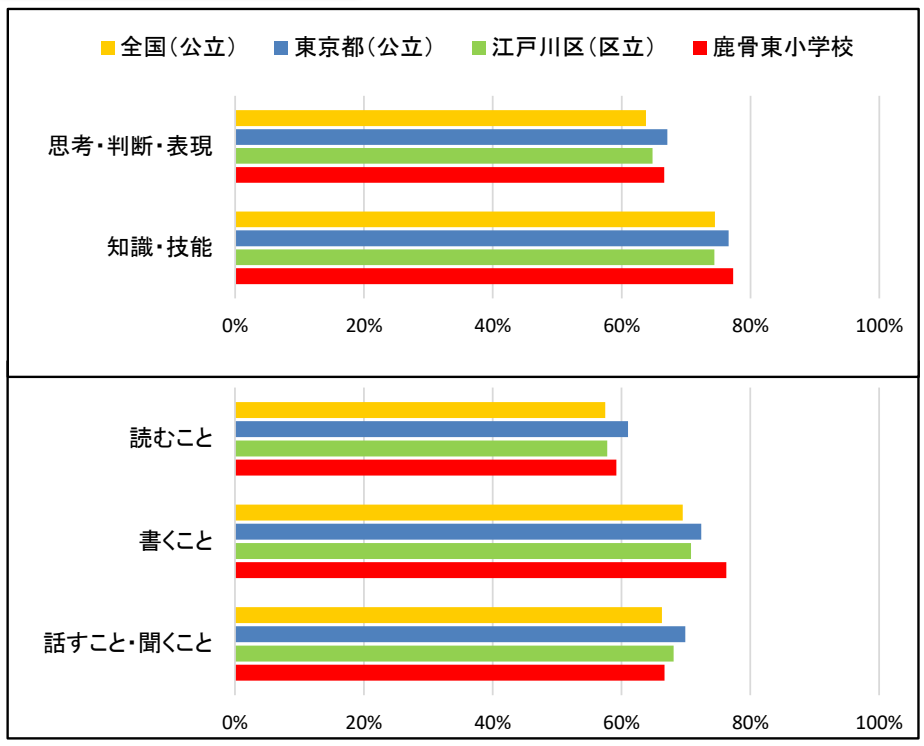
平均正答数
鹿骨東小学校：9.8問　江戸川区（区立）：9.5問
東京都（公立）：9.8問　全国（公立）：9.4問



【平均正答率の差】

鹿骨東小学校	70%
江戸川区（区立）	68%
東京都（公立）	70%
全国（公立）	66.8%
都との差（ポイント）	0.0

「領域別」の結果

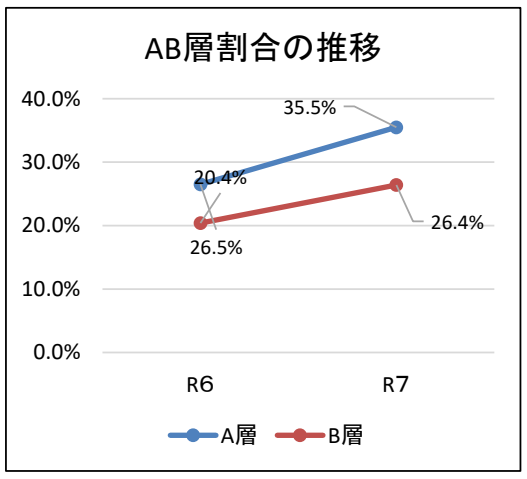


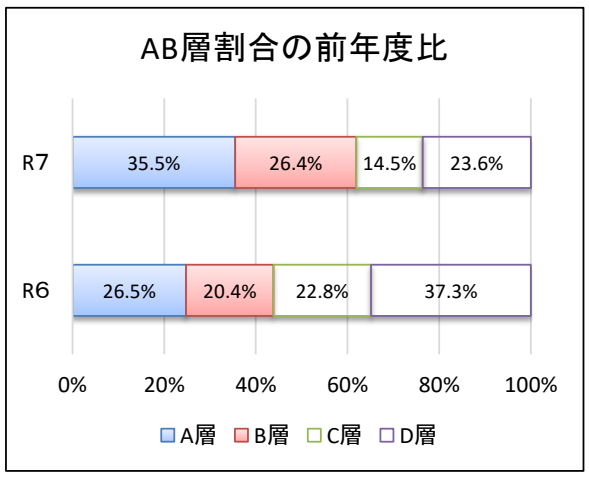
四分位における割合（都全体の四分位による）

上位 ←→ 下位

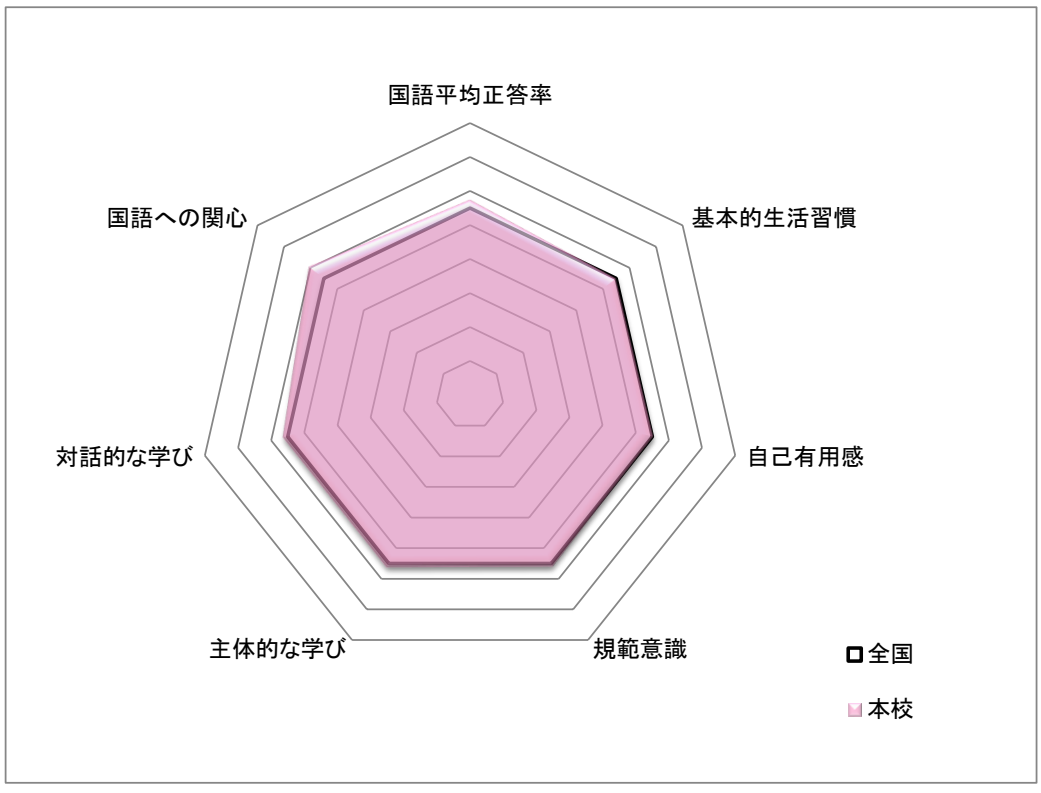
国　語	A層	B層	C層	D層
	12～14問	10～11問	8～9問	0～7問
鹿骨東小学校	35.5%	26.4%	14.5%	23.6%
江戸川区（区立）	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都（公立）	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国（公立）	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・基本的生活習慣、自己有用感、規範意識、主体的な学び、対話的な学び、国語への関心について、どの項目も全国平均とほぼ同等か上回っている。特に、国語への関心が高い。低学年の頃から、読書の習慣を積み重ねた成果が表れている。

《家庭・地域への働きかけ》

・SDGs学習、ふるさと学習、学習発表会等を通して、資料を読み解く力やインタビューする力、分かったことや考えをまとめる力、学んだことを伝える力が育ってきている。引き続き、カリキュラムマネジメントを推進し、家庭や地域の協力も得ながら、国語力の育成に取り組んでいく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
　令和6年度に比べて、令和7年度は、A層は9ポイント上昇、B層6ポイント上昇と、ともに大きく上回った。特に、A層が飛躍的に伸びている。6年間の積み重ねが功を奏している。C層は8.3ポイント下降、D層は13.7ポイント下降と大きく減少している。特にD層の減少が著しい。この学年の特徴として、低学年、中学年の頃から授業規律が確立しており、落ち着いて学習に取り組む雰囲気が醸成されていたこと、漢字ドリルの活用等、基礎的な学習に繰り返し取り組む児童が多く、家庭学習が毎日ほとんど全員提出される等、家庭の協力体制があり学習環境が整っていたことが挙げられる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

・校内研究として、国語を中心に取り組み、外部の講師を招いて、国語の出前授業をしてもらったり、校内研究授業を見て助言していただくなど、教員の指導力向上に務めた。
・校内OJTとして、年3回の自己申告授業を互いに参観しあったり、日頃の授業を参観しあって意見を交流する等、様々組み合わせでOJTに取り組んだ。
・ICT活用について、情報リーダーを中心として校内研究会を開いたり、ICT支援員に授業支援をしてもらったりして、活性化に務めた。

・基礎学力の保障

・漢字マスターの取組として、異学年交流の中で、漢字の読みを習得したかどうか聞き合い、読めたらシールやバッチで賞賛することによって、確実に習得することができた。

・学習習慣の確立

・漢字ドリルの反復練習をすることによって、家庭学習の習慣を確立した。
・年3回の家庭学習週間でミライシードのドリルパークを活用した反復学習に取り組ませ、家庭学習の習慣を定着させた。
・読書に親しむ時間を多く確保し、学校図書館の利用率が高かった。

・AB層の育成

・よむYOMUワークシートを活用し、多くの初読の文章を読むことにより、読解力を育て、記述式の回答に慣れさせた。
・外部の講師を呼び、主に記述式の回答の仕方について、ポイントを教えていただいた。